

1Qa-6 家計の変容とコメ消費

○柿野成美* 草苺仁**

(*お茶の水女子大 **農業総合研究所)

【目的】 家計のコメ消費に関する研究は、コメがわが国の主食であることもあって、これまでに数多くなされてきた。こうした研究の主流は、家計のコメ購入量を自己価格や家計消費支出といった経済的要因で説明する需要分析である。しかし、家計のコメ消費の減少を説明するためには、「家計」自体が変容し、そのことがコメ消費に及ぼす効果も、一方で重要な要因であると考えられる。そこで、本研究では従来の経済的要因に加えて、「家計」そのものの変化を分析の視野に入れてコメ消費量の減少を検討することを目的とする。

【方法】 ①「賃金率の上昇に伴って時間の価値が高まり、炊飯という家事の機会が減ったため、家計におけるコメ消費量が減少したのではないか」②「世帯規模が小さくなるほど、炊飯は非効率なものとして認識されるため、家計のコメ消費量は世帯規模の縮小を上回って減少したのではないか」という二つの仮説を検証するため、家計の行動モデルから導出された需要関数によって実証分析を行った。

【結果】 分析の結果、家計のコメの消費量は賃金率の上昇に伴って減少してきたこと、また世帯規模の縮小を上回って減少してきたことが明らかになった。この結果は二つの仮説を支持するとともに、コメ消費量の減少を説明する上で「家計」自体の変容に注意を払うことの重要性を示している。